

特集 1

# えひめで磨く! 新・農業人へのワザ

農業に縁のない人や都会暮らしの人たちが、「農業を始めたい」、「定年帰農したい」という希望を実現するには、技術や経営のノウハウなどを身につけることが必要になる。

しかし、「どこで、どんな農業をするために、どのような技術を身につけるか」というと頭を悩ませるのではないだろうか。自然に恵まれ、温暖で穏やかな瀬戸内・愛媛県は、就農・帰農を考えている人を積極的にサポートしている。

新・農業人となるために必要な技術やノウハウの習得などをサポートする愛媛県、市町独自の公的な研修制度を紹介する。



# 愛媛

特集 1

## 研修受け入れ 23人の実績

愛媛県・久万高原町  
久万農業公園農業研修センター



農業公園農業研修センターには、実習温室6棟などがある

愛媛県の久万高原町に、久万農業公園農業研修センターがある。新規就農希望者の研修受け入れ実績は、1998年度からの10年間で23人に上る。そのうち、16人が定住している（表参照）。新規就農者の高い定着率で定評のある久万高原町の農業研修制度、その秘密を探ってみよう。

### 07年度2人の女性が研修中

07年4月からは、東京出身の2人の女性が農業研修中だ。



トマト苗を世話する研修生・土屋ゆきさん

そのうちの1人、土屋ゆきさん（38歳）は、東京都生まれの茨城県育ち。東京農業大学の農芸化学学科を卒業した後、肥料会社に就職した。名古屋市の会社に勤務中は、緑化関係のバーク堆肥を取り扱い、取引のある農業生産者と直接話をする機会が多かったという。そうしたなかで、農業をやりたいという思いがつのつていった。

農業法人への就職も考えながら、06年5月、7月と2度、「新・農業人フェア」に参加した。求人を出している農業法人の面接を受けたが、農業法人も会社組織、

会社勤めの経験から、会社組織のなかに入ると自分の得意分野に割り振られてしまうと感じた。そこで「自分で農業経営をして、最初から最後まで農作物の栽培にかかわりたい」と思い、イターン・自営の農業経営開始を目標と定めた。

06年7月のフェアで、愛媛県のブースを訪れた。そこで出会ったのが、久万農業公園農業研修センターの松本利広主任だ。

なぜ愛媛県か……お母さんの出身地は、松山市の瀬戸内海のミカンの島。夏休みになると、お母さんの実家で過ごすのが楽しみだった。その原体験が決め手となった。

なぜ久万高原町か……すでに10期にわたって新規就農希望者の研修生を受け入れている実績があり、定着している先輩たちが大勢いたためだ。町をあげての支援体制が整っていることが、大きな魅力だった。

早速06年8月、久万高原町に10日間の農家での事前研修に訪れた。土は黒ぼく土壌。関東出身者としては、親しみがわいた。久万高原町は、林業の町でもある。木質の材料があるので、「バーク堆肥がたぐさんつくれそう」というのが第一印象だった。

### 「やっと体が慣れてきた」

農業研修は、07年4月から。2カ月ほど経ったところから、やっと体が慣れてきた。研修中の住まいは、農林関係者の独身寮「やまぶき荘」。朝7時25分に車で寮を出発。7時40分に実習農場に着く生

久万農業公園農業研修センターの新規就農希望者の研修受け入れ実績

受入年度	受入者数	Uターン	Iターン	リタイア	町外出身者の出身地	就農品目
1998年度	1	1				トマト
1999年度	3	2	1		愛知	花・トマト・葉物
2000年度	3		3	2	県内・兵庫・愛知	米
2001年度	3	1	2	1	県内	トマト
2002年度	4	1	3		大阪・京都・神奈川	トマト・花
2003年度	4	1	3		東京・大阪・神奈川	トマト
2004年度	1	1				トマト
2005年度	1		1		県内	トマト
2006年度	1	1				トマト
2007年度	2		2		東京	トマト研修中
計	23	8	15	3		



久万農業公園には、農業研修センターに加え、久万高原農業公社、久万高原町営農業支援センターの事務局がある

新規就農希望者へのアドバイス

農業研修センター長の高岡啓一さんは、「農業が好き」といったあこがれだけでは就農は成功しないとアドバイスする。資金準備（当初資金に500万〜600万円）や事前の勉強は必要だ。就農は、「業」を起すこと。「業」の中でもいちばん難しいのが「農業」だという。また、地域のなかにとけ込むこと。田舎は人のつながりを大事にするところだ、と。

楽しみは、友だちとのメール。トマト栽培風景の写メールも送る。現在、農業公園内の市民農園を1区画借りて夏野菜、ズッキーニやバジルなどを栽培中。「大きく育ったら、夏野菜カレーができる」とメールしたばかりだ。

5月下旬に少し体調を崩した。2日休んだら、トマトの変化に気付いた。「現場で生きているトマトを毎日見ることが勉強」という。葉先が軽くなじれるくらいが、ちょうどいい水分量というが、実際の病気を見たことがないので、少し慌てることもある。

農業実習は、温室内でのトマトの養液土耕栽培。土づくり、苗づくりから定植、肥培管理、収穫、出荷販売まで一連の作業を行う。トマト苗に水をやるときは、1から10までゆつくり数えるようにしているが、「せっかちな性格だから、数えるのがだんだん早くなる」と土屋さん。トマト苗のわき芽をとるのは苦ではないが、高い所からトマト苗をつり下げるのはどうも苦手とか。

久万高原町のサポート体制

土屋ゆきさんは、「やる気が大切」「お金にはシビアに」「田舎暮らしがメインか、農業での収入確保がメインか、目的をはっきりさせること」と説く。研修後は、東京で出版社を自営するお父さんといっしょに就農する予定だ。

<久万高原農業公園研修センター研修制度>

- ①久万高原町内で新規就農したい者に対して、「久万高原農業公園研修センター」での農業研修機会を提供し、農業の担い手として育成する対象
    - ・おおむね50歳以下の者
    - ・終了後に、久万高原町で就農すること
    - ・研修期間はおおむね2年
    - ・研修品目については施設園芸による、トマト、イチゴ、花き、ホウレンソウの栽培を志す者・ある程度就農準備金を有する者
  - ②研修補助金※
    - ・町内出身者 12万円/月
    - ・Iターン者 15万円/月
  - ③農業機械・施設整備補助金※
    - ・就農時の機械購入、施設整備のリースを受け、300万円もしくは事業費の60%のいずれか低い額を補助金として交付
  - ④新規就農初年度の生活費貸与（無利子）
    - ・月額本人15万円（以内）、配偶者5万円（以内）、第一子3万円（以内）、第二子2万円（以内）
  - ⑤住居対策
    - ・Iターン者でかつ独身者であれば、後継者独身寮を斡旋
- ※注：ただし、就農開始後5年未満に営農活動を中止した場合は、返還の必要あり
- 【問い合わせ先】  
 (社) 久万高原農業公社  
 〒791-1212 上浮穴郡久万高原町下畑野川甲500  
 ☎ 0892 (41) 0040

久万高原町は、新規就農希望者に対する農業研修後、就農時の農地の仲介、就農1年目の補助金助成、専属の農業アドバイザーをマンツーマンで配置するなど、研修後のアフターケアと支援体制を整えている。

農業研修はおおむね2年間。トマト、イチゴの養液栽培や花壇苗生産など施設園芸が中心で、生産実習と合わせて、パソコン、農業簿記など経営知識も習得できる。トマト実習は、ロックウール栽培とスギ皮100%の新素材培地による養

液栽培。10㍓あたり収量12トンを目標に、夫婦二人をモデルケースにするなら20㍓規模の施設栽培を目指す。

研修後の新規就農者には営農支援センター指導班の集中指導、専任アドバイザーの定期巡回（総合指導）、地域別農家アドバイザーの指導、農地相談や定期懇談会など、技術・経営指導の支援を行っている。農業公社による冬季アルバイト先の紹介もある。



「新・農業人フェア」での久万高原町との出会いによって、土屋さんの農業研修への道が開けた（写真右：高岡センター長）





「経営に必須のパソコン技術は、若い研修生に教わっている」と越智さん（写真右）

三皿園のかんきつ・ジャム（マーメイド）は有機JAS認証食品として「安全・安心・健康」と好評（写真左）



ループの一員として、有機・無農薬の草生栽培でかんきつを作っている。  
かんきつ経営の場

## 農家出身の女性が研修中

同園が農業研修生を受け入れていることをホームページなどで知り、10日に一人ほどの割合で問い合わせがあるという。月に一人くらいが10日間の短期研修にやってくる。だが、テレビで見る農業体験と違い、実際は、暑いなかで草を管理するなどの単純労働の積み重ねがメイン。3日で音上げる人も出てくる。

下川正代さん（22歳）は、九州東海大学を卒業したばかり。実家は、熊本県玉名市で水田10畝を経営している。大学の主任教授が越智さんの1年先輩ということもあり、在学中からメールのやりとりをし、昨年夏には同園で短期研修を体験。今年4月から、2年間の予定で長期研修生になった。

このかんきつ園は、急な斜面にある。下草をかき分けて上り下りし、かんきつ木の木の根元の草を管理する。春草は倒すだけ。春草を刈り取ってしまうと、草勢の強い夏草が繁茂してしまうからだ。

有機かんきつ園の夢を実現するために、そうした急斜面での作業研修を、下川さんは黙々とこなしていく。

「大変だけど、がんばっていく。研修を終えたら熊本に帰り、母方の祖父母が経

## 経営者以上の人材は育たない

営するみかん園2・3畝の後継ぎになつて有機かんきつ農業をやりたいから」

越智さんは「一般の会社でも、経営者以上の人材は育たないといわれる。後継者を育てるためには、自分自身を磨いて高めないと。勉強会や研究会といった機会には必ず出かけている」と話す。

また、「パソコンができないと、今の農業経営はできない。パソコンは、若い研修生から教わっている」と笑った。

## 協業経営を目指して

同園の商品の特徴として、加工している有機JAS認証のピールがある。これはチョコレートの芯やクッキーなどの原材料にする乾燥果皮。生ではなく、乾燥させる果皮を、このように手間をかけて有機農業でつくる人はほとんどいない。それだけに貴重な商品といえる。

「営業はほとんどしない。それでも、ホームページを見て、業者から一般のお客さんまで問い合わせがしきりにくる」

このように、栽培だけでなく、近年は加工業のほうも忙しい三皿園。

「園地・加工所・営業とそれぞれ責任者を配置して、研修修了者の自立も増やし、協業グループ経営を確立することが今後の目標」という越智さん。

自立経営農家のパートナーが増え、協業経営が軌道に乗る日は、そう遠くないかもしれない。

### <愛媛県東予地方・自治体の支援制度>

- 上島町農林漁業インターン事業
- ①上島町に転入し10年以上居住する意思のある農林漁業を営もうとするおおよね50歳以下の人
  - ②経営ノウハウや技術を習得するための研修期間の2年以内について、月額10万円の研修費を支給
- 【問い合わせ先】  
上島町 岩城総合支所 産業建設課  
〒794-2492  
越智郡上島町岩城 1427  
☎ 0897 (75) 2500

### <県段階の農業研修制度>

#### 先進農家での農業体験研修

- 農林漁業体験ステイ事業  
実施主体：えひめ農林漁業担い手育成公社  
都市青年や学生（40歳未満）等を対象に、県内先進農林漁家等で概ね5日間から10日間の体験研修を実施している。

#### 本格的な農業研修

- 営農インターン推進事業  
実施主体：えひめ農林漁業担い手育成公社  
愛媛県内で、就農予定又は確実な方（40歳未満）を対象に実務研修を実施します。  
新規参入者対象の長期コース（1年以上2年以内）の研修には、1カ月当たり7.5万円の助成措置がある。

問い合わせ先：えひめ農林漁業担い手育成公社 ☎ 089(945)1542 URL <http://www1.odn.ne.jp/cek31650/>

#### 農業の仕組みや制度を勉強

- えひめ農業入門塾（基礎コース）  
実施主体：愛媛県立農業大学校  
農業に関心のある他産業従事者等を対象に、土、日曜日を利用した就農準備のための基礎研修を実施している。
- えひめ農業入門塾（実践コース）  
実施主体：愛媛県立農業大学校  
就農を考えている方を対象に、講義及び実践的な実習を通じ、農業を行うために必要な知識や栽培技術を取得できるコースを設けている。



水耕栽培・高設施設のガラス温室（約2000㎡）では、イチゴの栽培を研修。土耕栽培ガラス温室（約2000㎡）では、メロン、スイカ栽培の研修ができる。水稲作、

# 愛媛

特集 1

## イチゴなど果菜の研修生募集中

愛媛県北宇和郡鬼北町  
鬼北農業支援センター・鬼北町農業公社

鬼北町の農業支援センターと町農業公社は、農業研修生を募集中だ。

愛媛県の西南部にある鬼北町は、2005年1月、広見町と日吉村の合併により誕生した町である。

農業研修は、07年10月から原則、2年間。農業研修生の条件は、研修終了後、鬼北町で5年以上、農業に従事することができる満40歳未満の人。

町農業公社のガラス温室などの研修施設を利用して、実践的な農業体験研修ができる。研修内容は、施設園芸作物が中心。

その他農産物の栽培研修のほか、農業生産技術と農業経営の基礎が学べる。

### 研修手当この支給などで支援

研修生に対しては、研修期間の2年間、町外からのイターン者には月額15万円の研修費（手当）が支給される。

研修終了者に対して、就農時に、農業機械購入・施設建設の事業費の60%以内（限度額300万円）の補助がある。そのほか、農地のあっせん、住居情報の提供など、就農に必要な支援を受けられる。

鬼北町農業公社は、町全体の農業振興のため、①農作業の受委託、②担い手育成のための農業研修、③農業機械・施設の貸し付け、④特産品の試験研究・販売、⑤都市農村交流事業、⑥農業研究施設の活用、など多彩な活動を行っている。

とくに④特産品の試験研究は、菌床シイタケ（品種「媛王」）の試験栽培、水耕・



ガラス温室でのアールスメロンの土耕栽培

高設施設のガラス温室でのイチゴの周年栽培、土耕栽培のガラス温室でのアールスメロンの試験栽培や地這いメロン、地這いスイカ栽培などである。

### 新規参入の先輩たち

旧広見町には、土地付き住宅を借りて新規就農した栃木県出身のイターン者がいる。農地20アを基礎にして、ビニール温室2棟でネギなどを栽培している。就農1年目から消防団に入り、地域に溶け込んでいる。高齢化が進んでいる地域のため、「うちの農地も預かってくれ」といった話が次々と出ている。旧日吉村（現大洲市）では、定年3年前に退職し、脇川町の有機農業塾「皆農塾」で1年研修してから就農した、名古屋からのイターン者が有機農業に取り組んでいる。

鬼北町農業公社の高橋哲生事務局長は、「研修期間2年間に研修費を支給するな

#### <愛媛県南予地方・自治体の支援制度>

##### ●鬼北町新規就農促進事業

##### ①(社)鬼北町農業公社研修生募集条件

- ・40歳未満
- ・研修終了後5年以上鬼北町で農業に従事すること

##### ②農業研修補助金

- ・町内在住者月額12万円・町内以外月額15万円

##### ③農業機械・施設整備補助金支給

- ・事業の60%以内、もしくは300百万円のいずれか低い額

【問い合わせ先】

鬼北町産業課

〒798-1395 北宇和郡鬼北町近永800-1 ☎ 0895 (45) 1111

(社)鬼北町農業公社

〒798-1323 北宇和郡鬼北町岩谷352-1 ☎ 0895 (30) 6521

##### ●松野町新規就農促進条例

##### ①研修生の募集条件

- ・おおむね18歳以上～45歳未満

##### ②研修内容

- ・水耕栽培研修 ・花苗生産研修

##### ③支援措置

- ・研修期間2年 ・研修補助金月額12万円 ・農地等の斡旋

【問い合わせ先】

松野町 産業振興課

〒798-2192 北宇和郡松野町松丸343 ☎ 0895 (42) 1111

(株)松野町農林公社

〒798-2111 北宇和郡松野町吉野222 ☎ 0895 (42) 2103

#### えひめ ふるさと農村体験ツアー 今秋開催予定!!

愛媛県では、農業への就業を希望する団塊の世代等の方を対象に、農業体験や地元の農家との交流会を行うツアーを今秋開催します。東京・大阪からの発着プランも計画予定ですので、興味がある方はぜひご参加ください。開催日や費用などの詳細は、9月中旬に下記のホームページで公開されます。

○えひめ農林漁業担い手育成公社HP

URL: <http://www1.odn.ne.jp/cek31650/>

【問い合わせ先】

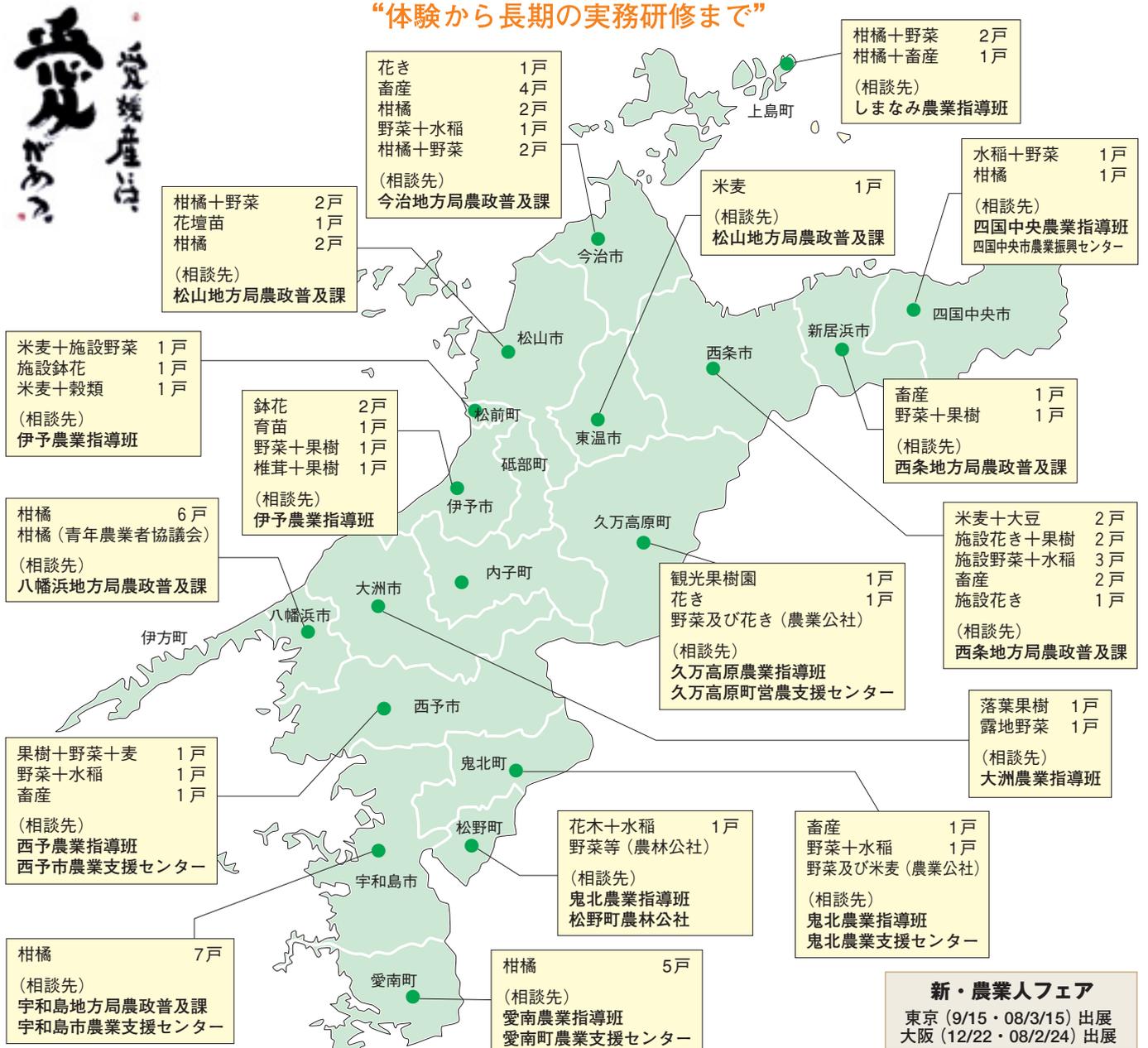
愛媛県農林水産部農業振興局農業経営課担い手対策推進室

TEL: 089 (912) 2553

ど、新規就農希望者に手厚く支援している。だが、既存の農家も兼業の農外収入で生活するなど、中山間地の農業生産条件は厳しい。ほかの地域と条件を比べて、その上で鬼北町を選んでくれるなら、できるだけ支援はする。しかし、研修費も生活費に消えることがほとんど。自己資金を300～500万円用意するなど、それなりの就農準備が必要だ」と話す。

# 愛媛県内における研修受け入れ情報

“体験から長期の実務研修まで”



相談窓口	電話	相談窓口	電話
農林水産部担い手対策推進室	089 (912) 2553	宇和島地方局農政普及課	0895 (22) 3514
愛媛県立農業大学校	089 (977) 3261	鬼北農業指導班	0895 (45) 0037
西条地方局農政普及課	0898 (68) 7322	愛南農業指導班	0895 (72) 0149
四国中央農業指導班	0896 (23) 2394	四国中央市農業振興センター	0896 (28) 6040
今治地方局農政普及課	0898 (23) 2570	久万高原町営農支援センター	0892 (41) 0040
しまなみ農業指導班	0897 (72) 2325	(社) 久万農業公社	
松山地方局農政普及課	089 (909) 8762	内子町農村支援センター	0893 (44) 2199
久万高原農業指導班	0892 (21) 0314	西予市農業支援センター	0894(62)1111(内650)
伊予農業指導班	089 (982) 0477	宇和島市農業支援センター	0895 (24) 1111
八幡浜地方局農政普及課	0894 (23) 0163	鬼北農業支援センター	0895 (45) 2911
大洲農業指導班	0893 (24) 4125	愛南町農業支援センター	0895 (72) 1211
西予農業指導班	0894 (62) 0407	(社) 鬼北町農業公社	0895 (30) 6521
		(株) 松野町農林公社	0895 (42) 0344

※研修受け入れに際して宿泊有無・年齢要件があります。また、体験程度から1年以上の長期の受け入れが可能です。  
※研修希望に際しては相談窓口または、(財)えひめ農林漁業担い手育成公社にご相談ください。

総合相談窓口

(財)えひめ農林漁業担い手育成公社 URL <http://www1.odn.ne.jp/cek31650/>  
〒790-8570 愛媛県松山市一番町4-4-2 TEL. 089(945)1542 FAX. 089(932)7825